

津のまち紹介 久居

◆博士とハチの銅像を久居駅東に設立を

◆忠犬ハチ公とは

日本中によく知られた「忠犬ハチ公」は、飼い主の東京帝国大学（現東京大学）の上野英三郎教授と愛犬ハチの心温まる感動ストーリーである。

毎日のように上野教授を渋谷駅まで、送り迎えしていたというハチ。しかし、幸せな日々も上野教授の急死により、突然終止符が打たれてしまった。

主亡き後も渋谷駅で待ち続けたハチ。その一途な姿は人々の心を打ち、「忠犬ハチ公」の話として新聞などを通し、広く世間に知られるようになった。



◆上野英三郎氏とは

忠犬ハチ公が待ち続けた主、上野英三郎氏（明治4年12月10日〜大正14年5月21日）は、津市久居元町出身。

帝国大学農科大学卒業後、大学院を経て、後に東京帝国大（現東京大学）農科大学教授へ。

明治38年には農業土木技術員養成官も務め、3000人を超える技術者を養成。農業土木研究や耕地整理技術者養成などに尽力し、「日本農業土木・農業工学の創始者」と呼ばれた。

東京都文京区本郷の東京大学農学資料館では、上野博士の胸像を展示。青山墓地では、上野氏の隣にハチが葬られている。

◆上野博士ゆかりの地

・方尊寺（津市久居元町）
上野博士のお墓がある。



・小戸木神社
（津市久居小戸木町）
上野博士の記念碑がある。



◆渋谷駅前のハチ公像



「渋谷ハチ公前」といえば、全国的にも有名な待ち合わせスポット。いつもたくさんの人たちが溢れかえっている。

渋谷駅前の「ハチ公像」は、彫刻家の安藤照氏が制作し、昭和9年4月に建てられた。同年4月21日には、盛大に除幕式が行われ、ハチも出席している。

戦時中に金属供出となり、現在の像は安藤氏の息子、彫刻家の安藤士（たけし）氏が制作し、昭和23年8月に再建された。
・東京都渋谷区道玄坂1丁目
渋谷駅ハチ公口すぐ

◆全国のハチ公像

渋谷駅前のハチ公像を始め、全国には他に3つのハチ公像がある。



・大館駅前
「ハチ公銅像」
ハチの生地、秋田県大館市のJR大館駅前に建つ。他の銅像とは違い、左耳は垂れておらず、両耳とも立っている。
・秋田大会館前
「望郷のハチ公像」
同じくハチの生地、秋田県大館市三の丸の秋田大会館前に建つ。

・山形県鶴岡市役所内
「ハチ公像」
山形県鶴岡市の藤島庁舎内に展示されている。
渋谷駅前のハチ公像の2代目の銅像を制作した際の試作品。

◆上野英三郎博士とハチの銅像を建てる会

◆上野英三郎博士とハチの銅像を建てる会発足



「日本農業土木の創始者、上野英三郎博士と忠犬ハチの銅像を博士出身地の近鉄久居駅東口に建てよう」と昨年7月、「上野英三郎博士とハチの銅像を建てる会」（村田和俊会長）が、正式に発足した。

津市久居で不動産業を営む多田滋郎さんは、30年ほど前から銅像建立を構想。

「ハチゆかりの地にある銅像はどれもハチの銅像だけ。人と動物との強い絆の話ですから、博士とハチの銅像をぜひ出身地の久居に建て、地域の活性化につなげたい」。自社のチラシ

◆上野博士の記念碑発見

博士の生家があった久居元町周辺では、村田会長を始め、安田秀紀副会長（69）や長谷川文夫会計（58）らメンバー一行が、聞き込みを実施した。

今年1月には、津市久居小戸木町にある小戸木神社に「上野英三郎農学博士墓額」（大正13年建立）の記念碑があることを発見、解説などを行った。

同年5月には、上野博士とゆかりの家から記念碑前で撮影した写真も探し出したという。



◆写真や肖像画も発見



大正12年10月17日撮影写真



上野博士の親族の家では、正装姿の上野博士の写真やハチの肖像画なども発見し、由来についての調査などを行っている。地道な活動を続け、博士やハチに関する新たな情報を次々と発見し、研究を続ける同会。これからの活動にも期待がかかる。

◆今後の活動

同会の積極的な活動により、上野博士やハチについての認知度も徐々に上がり、市民の関心も高まっている。

しかし、昨年11月から開始した銅像建立に向けた募金活動は低調で、目標額にはまだまだ遠いというのが現状だ。

村田会長は、「私たちの活動は草の根運動。今後もしっかりと掘り下げ、地道に運動を展開していきたい。中学生や高校生など子どもたちにも上野博士やハチについて知ってもらえるよう、働きかけたい。イベント時の広報活動など、幅広く活動しようと考えています」と今後の活動について、意気込みを語った。

・募金の振り込み先

郵便振替 口座

008600181731999

口座名は「ウエノハカセト

ハチドウソウラタレカイ」

・同会事務局

津市久居新町1103

電話059(25)4355



◆近代農業土木を切り拓いたサムライ上野英三郎

上野英三郎は、西欧の灌漑や耕地整理の科学技術を学び、日本の農業土木学を「公的に教育研究する学制」に築き上げ、世に幾多の優れた農業土木技術者を輩出した科学技術者です。

ここでは、上野英三郎が、農業土木学を「公的に教育研究する学制」の確立に奔走した背景について述べます。

明治28年、上野英三郎は帝国大学農科大学(明治30年東京帝国大学農科大学に改名)卒業後、同大学院にて耕地整理の研究を深める。

その頃、明治27〜28年の日清戦争前後より工業の成長や都市の拡大が顕著となり、米の需給バランスに大きな変化が生ずるようになった。明治政府は、積極的な食糧増産政策に乗り出し、その有用な基礎として「耕地整理」を位置づけていた。

明治32年、政府は、全土地所有者数と全面積の3分の2以上の同意があれば強制的に耕地整理事業を共同で施行できる「耕地整理法」を定めた。

翌33年、上野英三郎は東京帝国大学農科大学の講師となり、

農学第二講座を分担して農業土木学の講義を開講した。農業土木学の大学講義への登場である。しかし、「耕地整理法」は、ドイツの土地整理法による畑地の区画整理を準拠したものであったため、日本の水田構造に合う区画整理に見直す必要があった。

当時の農業は地主的土地所有制であり、地主は耕地整理によるつぶれ地の増大を嫌ったが、小作人の労力の節約(労働生産性)を第一に考え、現地の物理的諸条件から計算理論を用いて、水田耕地整理の基礎(耕地区画論、水路論、道路論等々)を築いたのが上野英三郎であり、この理論は現在も利用されている。

耕地整理事業が進展するものの、農業土木専門の高等教育機関がなく、耕地整理実務者を養成する講習会を開く必要が求められ、上野英三郎はその制度の中心的な役割を果たす。明治38年、農商務省は、耕地整理技術者養成のための耕地整理講習制度を定め、大日本農会附属私立東京高等農学校(現東京農業大学)に依頼し、第三種として中学

校・農学校の卒業者を対象に講習を開始した。翌39年からは東京帝国大学農科大学にも依頼し、第一種として在学生・学士、第二種として高農卒・高工土木科卒を対象に講習を行った。また、私立攻玉社工学校にも依頼して第三種講習を行った。上野英三郎はこの講習を通して生涯3000人を超える実務者を養成した。この耕地整理講習は、昭和30年度まで続けられ、実務養成者数は4000人を超えた。

上野英三郎は、明治38年に助教に昇格し、東京高等農学校の夏期講習会の講義を基礎に加筆して「耕地整理講義」を著した。この著は上野英三郎の代表作だけでなく、日本の農業土木事業と教育研究に係る基礎と指針を示したものであり、耕地整理に関する理論的研究がはじめて体系化されたものと評価されている。また、上野英三郎は農学校の農業土木教育の必要性を強調して、「農用工学教科書」(明治36年)、「農業土木教科書」(明治37年)を著している。

明治44年、ようやく東京帝国大学農科大学に農業工学講座が認められ、上野英三郎はその担

当教授に昇格する。農業工学講座の授業科目は、農業土木学と農業機械学の二科目だけであったため、農業土木の専門職を極めるためには、同大学が農商務省から委託された耕地整理講習の科目(農業水利、かんがい排水、河海工学、揚水機、耕地整理法規、測量実習、土木施工、応用力学、微積分学等)を履修する必要があった。

そこで、上野英三郎は、農業土木学を自立した教育体系に確立するために、耕地整理講習を正規の学科として編入することを試みた。教授会の同意を得んと説得するものの、農科部長のほか有力教授らに時期尚早なりと反対される一幕もあった。

しかし、上野英三郎の信念と熱意により大正14年4月に東京帝国大学に農業土木専修が誕生した。同年5月、上野英三郎は勤務中に倒れ、文字通り自らの命を農業土木学に捧げた。(享年54歳)

その後、昭和10年に東京帝国大学に農業土木学科が誕生する。終戦を迎え、日本国民の食糧生産基盤の安定供給が求められる中、農業土木学のニーズが高

まり、農業土木学の公教育学制が全国に広まった。

まさに、上野英三郎は、農業土木技術者の生みの親である。

戦後の農地改革を契機に、上野英三郎の「耕地整理学」の普及を阻んできた地主的土地所有制が終結し、昭和24年に耕地整理法に変わる土地改良法が定められた。この法律によって耕作者の利益を第一に考えた上野英三郎の耕地整理は、ほ場整備事業に生まれ変わり、日本の安定した食糧生産基盤が今にあることを我々は忘れてはいけない。

さいごに、近代思想が飛び交う明治の激動時代のなかで、日本人の本質をぶれずに前へ突き進んだ上野英三郎の姿が、忠犬ハチ公を生んだと私は思う。

☆投稿者 阿藤正樹

勤務先

三重県農林水産商工環境事務所

農村基盤室 農村計画課

【参考文献】

農業土木史

(社団法人農業土木学会)

農業土木ハンドブック改訂5版

(社団法人農業土木学会)